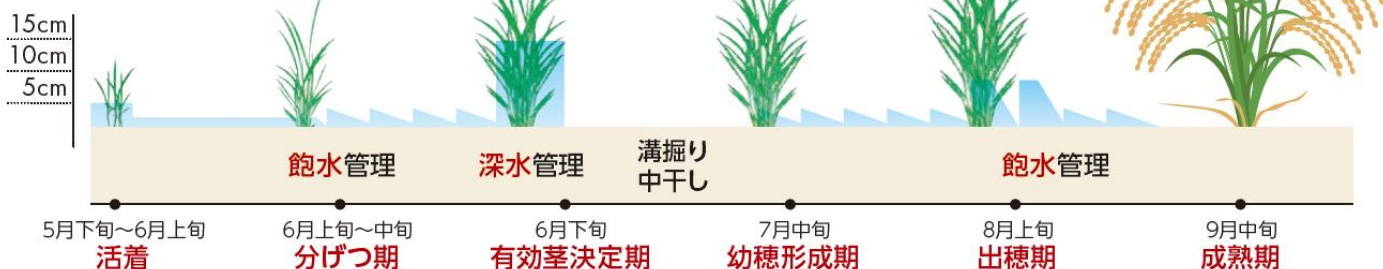


❖「*飽水管理」を推進しています❖

*「飽水」とは、地表に水が見えなくても土には十分に水が含まれている状態のこと

「飽水管理」とは、田んぼの水位を浅く保ち「水が減ったら再び水を入れる」を繰り返す水管理です。



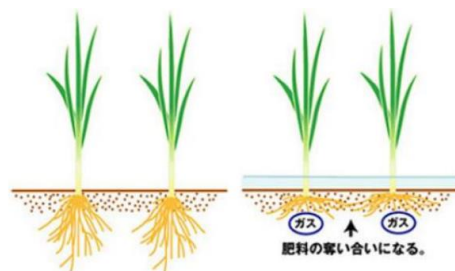
「飽水管理」をすると

➡ 土の中の有害ガス（硫化水素、メタンガス等）が抜けます

◆根に酸素が十分に補給されて、根がよく伸びます。

◆地温の上昇を抑えることができます。

◇有害ガスがあると...根が横方向に伸び、株と株の間で肥料の奪い合いになります。



初期生育確保

異常還元抑制

地球温暖化防止

高温登熟対策

根の活力維持

節水対策

こんな田んぼに効果があります！

◆異常還元



田植え後の温度上昇にと
もない稲わら等の有機物
が微生物により分解。酸
素が奪われ根に有害な硫
化水素（ガス）が発生

◆アオミドロ



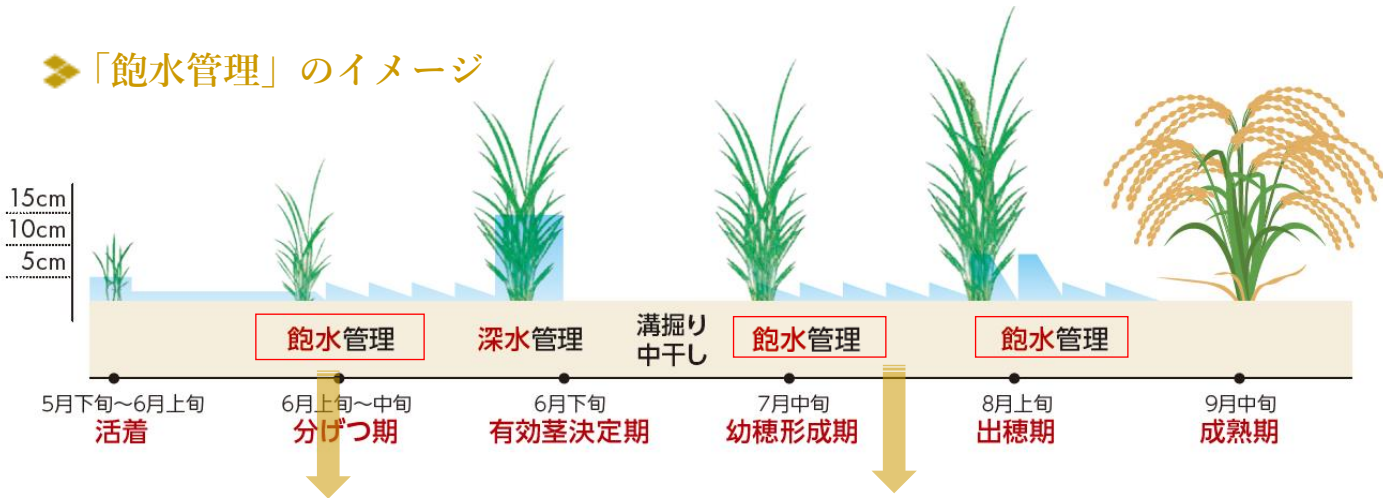
田植え後の高温や少雨が重
なることにより、土壌リン
酸や有機物・窒素成分の過
多等で発生

◆表層剥離



稲わら等の未熟有機物の
分解により発生する硫化
水素（ガス）などの気体
が浮力となり、酸化した
土壌表層が剥離

「飽水管理」のイメージ



◆ 6月の飽水管理の目的

- ①根に酸素を供給し、根腐れを防ぐ
→根の伸長を促進
- ②土の中の有害ガス（硫化水素やメタンガス等）を抜き、初期生育の停滞を防ぐ
→分げつを促進

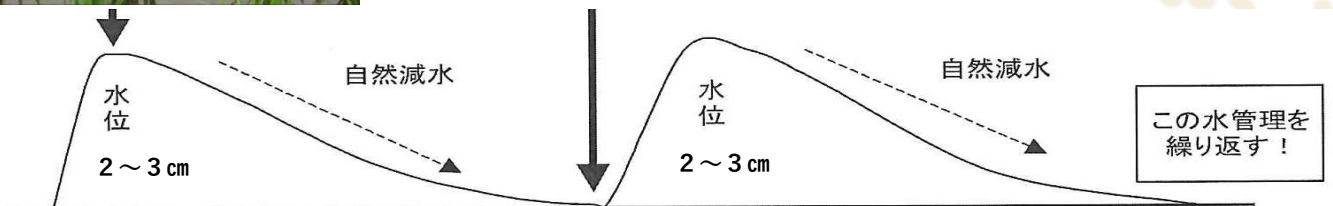
◆ 7～8月の飽水管理の目的

- ①根に酸素を供給し、根腐れを防ぐ
→根の伸長を促進
- ②条間に風を通し株元の温度と地温上昇を防ぐ
→根の活力を維持させ、高温でも登熟させる
- ③溝掘り跡への通水と組み合わせるため節水となる
→限りある用水を地域全体に行き渡らせる効果

自然に水が減り、足跡や溝に
水が残っているうちに
再び水を入れる



こんな状態は乾かし過ぎです！



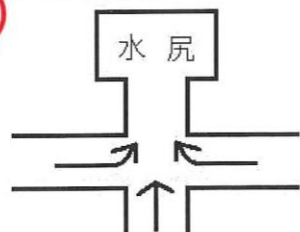
- ◆日数は目安です。
地域の水利実情に合わせた水管理を！
- ◆かけ流しは行わず、
限りある用水を地域全体に行き渡らせましょう



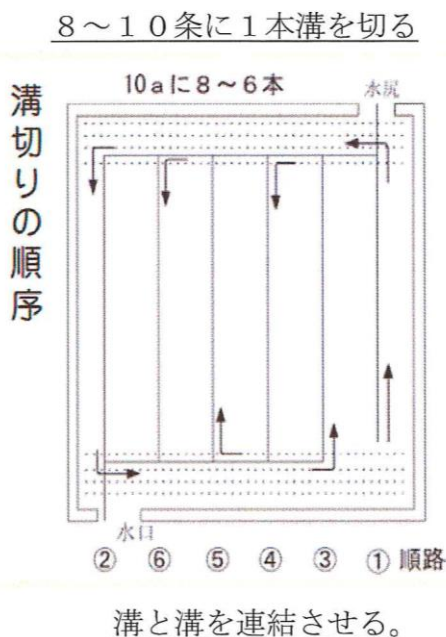
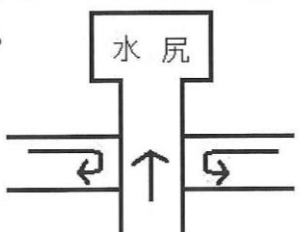
➤「飽水管理」は「溝掘り」とあわせて行くと効率UP！



全体が排水される



溝に阻まれ排水が滞る



◆田植え機1往復に1本溝掘りを行うのが目安です

➤「飽水管理」は環境にやさしい！

◆地球温暖化対策

飽水管理は、水田から発生する温室効果ガス「メタン」の発生量を減らす効果があります。

◆化学肥料・農薬の使用量削減

根の活力が維持され、倒れにくい丈夫な稲になることで化学肥料や農薬の使用量を減らすことができます。

◆節水

水量を減らすことができるので水資源の有効活用につながります。

➤「水見半作」

稲作の半分を占めるほど大切な作業であるという意味です。

米作りにおける水管理は、高品質・良食味米の生産と収穫量を両立させるための大切な作業です。適切な「飽水管理」で安定生産を！